

阪神・淡路大震災後に開催した「平成7年度 全国金銭教育協議会」において、神戸市長田区の小学校（当時）の吉富文男教諭に特別報告「震災下の金銭教育」としてお話いただきました。阪神・淡路大震災と東日本大震災は大きく異なる点が多いことは事実ですが、当時大震災をどう乗り越え、どのように金銭教育を進めたのか、あらためて今振り返ってみると大変貴重な内容だと思えます。被災地の復興をお祈りするとともに、当時の広報誌「生活の設計」1995年10月号に掲載したこの報告を再掲載します。

特別報告「震災下の金銭教育」

神戸市立池田小学校教諭（当時）

吉富文男

阪神・淡路大震災における神戸市長田区のことを覚えておられる方もいらっしゃるかと思いますが、地震発生と同時に火災が多発した街です。本校は、そのほぼ中央に位置し、今年で創立五十六年目を迎えました。震災によって七十人あまりの子どもたちが転校し、まだ戻ってきておりません。

学校および校区の被害状況ですが、古い校舎にもかかわらずしつかりした造りなのか、理科室が雨漏りするようになったくらいで、大きな被害はありませんでした。

本校に避難された方々は、電気と水道が使えるようになってから百人近くが家が家に戻りましたが、いまなお三十八人が残っております。

本日は、今回の大震災を私たちがどう乗り越え、また

被災経験を生かして、どのように金銭教育を進めているかについて、お話ししたいと思います。

●大震災のあと、ものや命を大切に――

今回の震災で私たちは数多くのことを学びました。なかでも水がなくては人は生きていけない、ということを感じました。そして、次第に元の生活に戻りつつあるいま、震災後の暮らし方にどのような変化が生じているかを知るために、アンケート調査を行いました。子どもたちに、地震のあと、ものを大切にしようになったか、気をつけるようになったことがあるか、などを聞いてみました。その結果、「水やお金を大切に使うようになった」「本当にほしいものしか買わなくなった」「電気やガスの無駄遣いをしなくなった」「鉛筆や消しゴムを小さくなるまで

使っている」「給食をはじめ食べ物をあまり残さなくなつた」「好き嫌いをなくすようにしている」「両親は自分たちのために働いてくれているから、ものを大切にし、自分ができることは自分でできるようにしている」「危ないところに近づかないようにしている」「道路を気をつけて横断している」など、ものや命を大切にすることになったようです。

また保護者には、地震後、自分自身の生活の仕方や考え方などに変化がありますか？と聞いてみました。

「自然とともに生きていかなければ子どもたちに良いものを残していけないと思う」「家を含めて形のあるものすべてが無になり、さらにゴミになるかと思うと、今回の地震は何ともつたいないことをしてくれたのか、という気になります」という意見がありました。

今回のアンケートを集約して思ったことは、家が倒壊したり、火災で何もかもなくしているにもかかわらず、なんとたくましい親だろう、と頭の下がる思いがしました。

保護者が強く、たくましく生きていく姿を見て、子どもたちも元気に育っています。ものを大切にしようとする心が育っている子どもたちを見て、私たち教職員がいま悩んでいることがあります。それは全国の皆さんからいただいた数万本の鉛筆、数千冊のノート、数千個の消しゴムを納めた段ボール箱が三十箱以上、倉庫で眠っています。この物資をどうしようかという悩みです。もう少し落ち着いた段階で国際レインボー便を通して海外で困っている子どもたちのために役立てようかとも考えてい

ますが、いまのところは決めかねています。

●貴重な体験を風化させないように

昨年来、私たちは、ものやお金を大切にしよう、と子どもたちに言ってきました。頭では分かっていますが、実際にどれだけの子どもが行動できたでしょうか。ところが今回の震災で何もかもなくなってみて、ものありがたさを身をもって知ることになりました。直接体験に勝るものはありません。しかし、こんな体験は二度とたくありません。ところがいま、低学年の子どもたちは震災後の苦しい経験が薄らぎつつあります。いま、われわれがしなければならぬことは、この貴重な経験を風化させてはいけない、ということだと考えています。神戸で金銭教育をすすめる意義は、そこにあると私は思っています。そこで本校では、親子で一緒に考えてもらおうと、六月の日曜参観で震災バージョンの金銭教育の授業を試みました。水の大切さや、ゴミ処理の問題、計画的な買い物などの問題を中心に展開しました。七月には全校生で地域の公園に出かけ、資源ゴミの空き缶を分別しながら清掃しました。四年生は四月以来、社会科で被災地での便乗値上げのこと、水道の復旧工事のこと、長田商店街が仮設店舗で営業を再開したことなどのニュースを取り上げたり、暮らしと水・ゴミの学習を通して金銭教育に関わる授業を展開してきました。「自らの暮らしを見つめ、行動する子を目指して」という本校の金銭教育の目標に少しでも近づけるよう、今後とも努力していきたいと考えております。